

道徳科実践レポート 小学3年 黄金の魚

【A (3) 節度、節制】

節度のある生活のよさを考え、節制しようとする気持ちを育む。

	学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	指導の工夫
1	<p>「節度、節制」について自分の生活を振り返り、問題意識をもつ</p> <p><b>発問</b></p> <p>普段の生活で、家の人とどんな約束をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTubeを見ることができる時間が1時間までというのが、お母さんとの約束だけど、つつい5時間ぐらい見てしまった。でも、代わりにゲームできる時間が「0」になってしまうと、つまらない。</li> </ul> <p>▶やりすぎは、よくないよね。でも、楽しみを設けず過ごすのもつまらないね。では、「ちょうどよい・ほどよい」感じってどうということなんだろうね。教科書の内容を通して考えてみよう。</p>	<p>教材の内容項目・教師のねらい・児童の実態を踏まえた話題提供をし、日頃の自分の生活を振り返る場面を設定した。</p>
2	<p>「黄金の魚」を読んで、話し合う</p> <p><b>発問</b></p> <p>今からお話を読みます。自分の心が動いたなと思うところに線を引きましょう。いいなと思ったら、線を引いてその横に○を、よくないなと思ったら×を付けます。よいのか、よくないかわからない場合には△を付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・×おばあさんが、「金持ちになりたい・海の女王になりたい」と言って、欲張っている。</li> <li>・△おじいさんがおばあさんの言いなりになっている。</li> </ul>	<p>「道徳見つけ」を通して、自分の経験を踏まえながら語らせるとともに、「子どもからの問い」を引き出せるように板書して、内容を整理する。「道徳見つけ」から、本時で扱う内容項目に関する問いが、自然と子どもたちから引き出せるようにした。</p>
	<p><b>中心的な発問</b></p> <p>おばあさんの願いはどこまでだったら理解できますか。</p> <p>A.おけ、B.立派な家・金持ち、C.海の女王・黄金の魚を家来、Z.その他 (何ももらわない・仕事の紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立派な家はもらいすぎだよ。何か仕事を紹介してもらうくらいがちょうどいい。</li> <li>・家をもらうまでだったらいいんじゃないかな。だって、黄金の魚も受け入れているから。</li> </ul> <p><b>発問</b></p> <p>黄金の魚は、海の底に隠れる前におじいさんに何と言ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の言いなりにならないためにも、「ここまで」という一定のルールを自分自身でもっていることが大切だよ。</li> <li>・人に合わせすぎるのもよくないよ。</li> </ul>	
3	<p>話し合ったことを基に、自分の生活を再度見つめる</p> <p><b>発問</b></p> <p>「ちょうどよいとは……」「ちょうどいい感じに過ごすには……」の続きを書き、わかったこと・考えたことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうどよいとは、ある程度満足できたらそこでやめること。</li> <li>・ちょうどいい感じに過ごすには、自分のルールを守ろうとする気持ちをもつとよい。</li> </ul>	<p>本時は「価値理解」を重視した授業にしたため、道徳的価値のよさや大切さを確認できるよう、導入で提示した視点に基づいて振り返りをした。</p>

※「道徳見つけ」の実践は、丸岡慎弥先生 (立命館小学校) の実践を参考にしました。